

令和6年度 徳島市防災会議 開催結果について

1 日時

令和7年2月13日(木) 10:00~11:10

2 場所

徳島市役所 13階 大会議室

3 出席者

49人

- ・会長 1人(市長)
- ・委員 43人(委員48人のうち欠席5人)
- ・事務局 5人

4 会議内容

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議事(徳島市地域防災計画 令和7年修正(案)について)

資料1「徳島市地域防災計画 令和7年修正(案)について」に基づき、事務局から説明。その後、委員に諮り、原案のとおり承認を得た。【質疑なし】

(4) 報告(南海トラフ地震対策の課題と対応)

徳島市危機管理局から報告。徳島市の地形的特性を切り口に、対策のポイントとなる「避難」・「救助捜索」・「被災者支援」のうち、特に対応に苦慮している「救助捜索」の課題、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)の発表時に向けた対応計画の精査、また、巨大地震警戒が発表された時を想定した職員訓練の実施について説明を行った。「救助捜索」については、阪神大震災の事例のように、命が助かった人の多くは地域住民の共助の力により救出されたケースであったことから、市民の防災意識の中に「救助捜索」も含めてもらう重要性について伝えた。

また、令和6年8月の南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表時の対応や所感などについて、意見交換を行った。委員から出された意見は次のとおり。

○南海トラフ地震臨時情報は、運用後初めての発表で戸惑うことが多かった。

○情報収集要員を常時待機させ、必要があれば速やかに隊員を派遣できる体制をとっていた。

○毎年、臨時情報に関する研修を行っており、今回の発表時も、何かあればすぐ出動できるよう水と燃料の積込を行い、備えていた。

○自然災害は未然防止が非常に困難なので、対応に苦慮している。関係機関のみなさんと訓練等を行っていききたい。

○臨時情報発表時は、機器の作動状況モニタリングの強化や災害対策車両を浸水想定エリア外に移動させ、いざというときに備えていた。

○平時から設備の安全点検に努めている。今回の臨時情報発表時は、念のため非常時の連絡体制を再確認した。

○高速道路は救急や物資輸送の重要インフラとなるため、防災業務実施計画を定めており、臨時情報の発表から政府による特別な注意の呼びかけ終了まで、警戒体制をとっていた。被災しても速やかに復旧できるよう、関連会社や協力会社等と力を合わせて対応している。

○自社が被災しても、系列のネットワークや全国の放送局と力を合わせて情報を届けられるようにしている。

○臨時情報発表時の社員の行動マニュアルについても作成したい。

○臨時情報自体の認知がまだ進んでいないと感じる。正しくリスクを伝えることが大切である。

○私の周りでは、店で水が売り切れている話を聞いたり、不安な感じや、周囲が何となくざ

わざわざしていた記憶がある。いつ地震が来るかもしれないと危機感をもって、毎日生活するくらいの方が良いのではないか。

(5) 閉会

5 開催状況

